

み てら だい しん じ
守山の御寺 大森寺の宝物

展示解説

名古屋城調査研究センター 堀内 亮介

一章

大森寺の創建と由緒



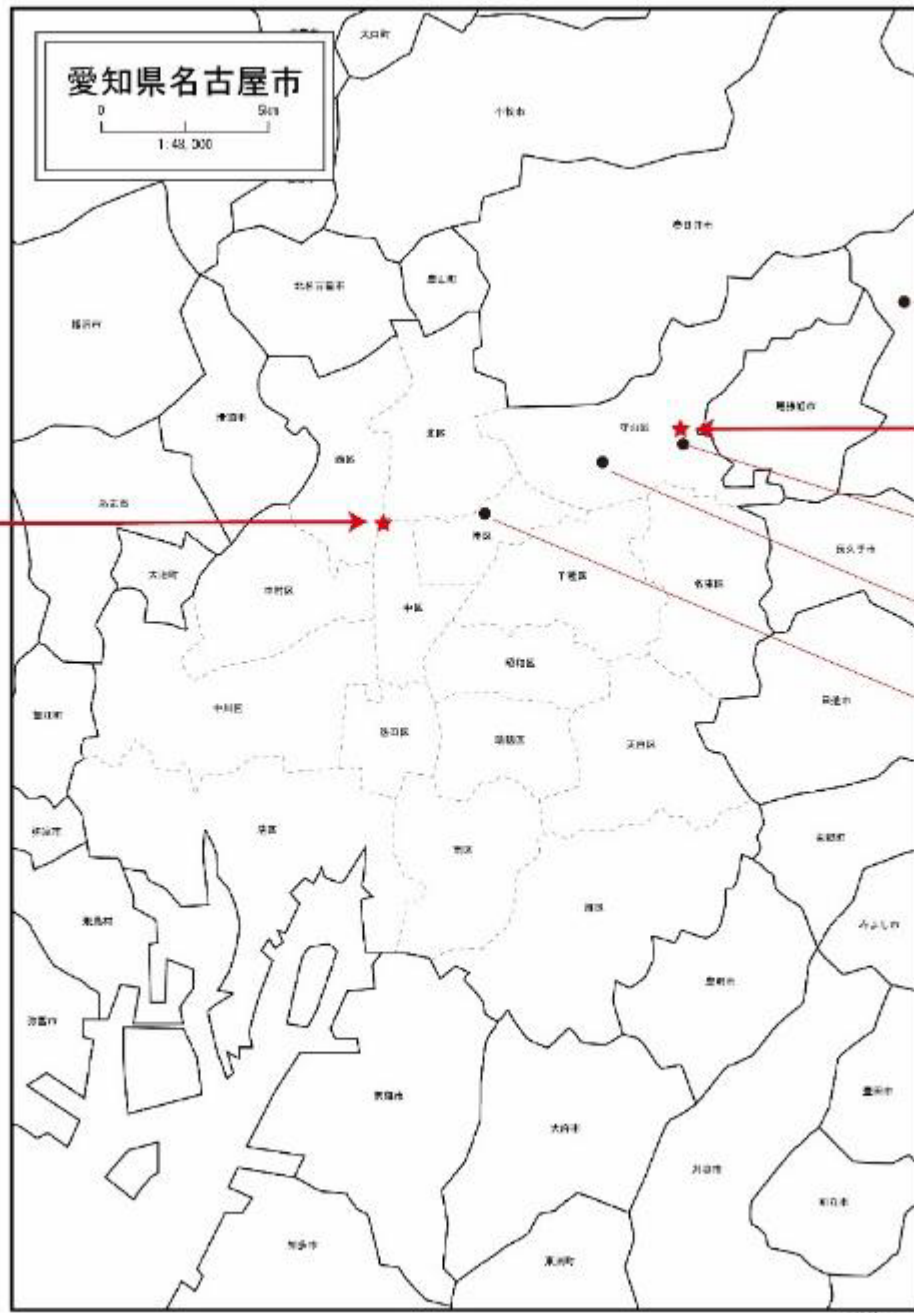
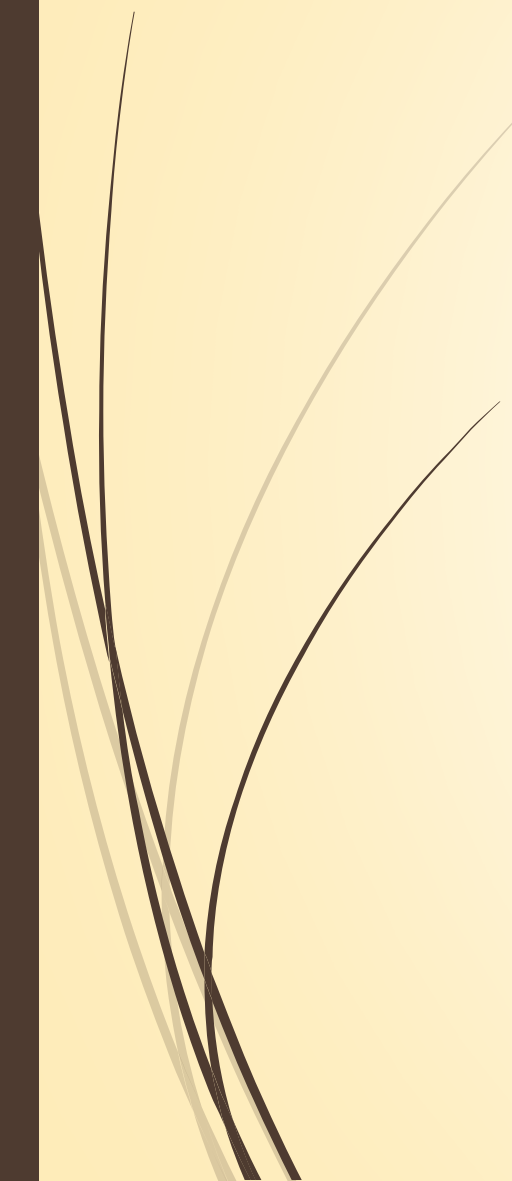
大森寺（だいしんじ）

名古屋市守山区にある浄土宗寺院

尾張藩二代藩主 徳川光友の生母・**歓喜院お尉**の菩提寺

「**尾州御寺**」の一つとして尾張徳川家の庇護を受ける



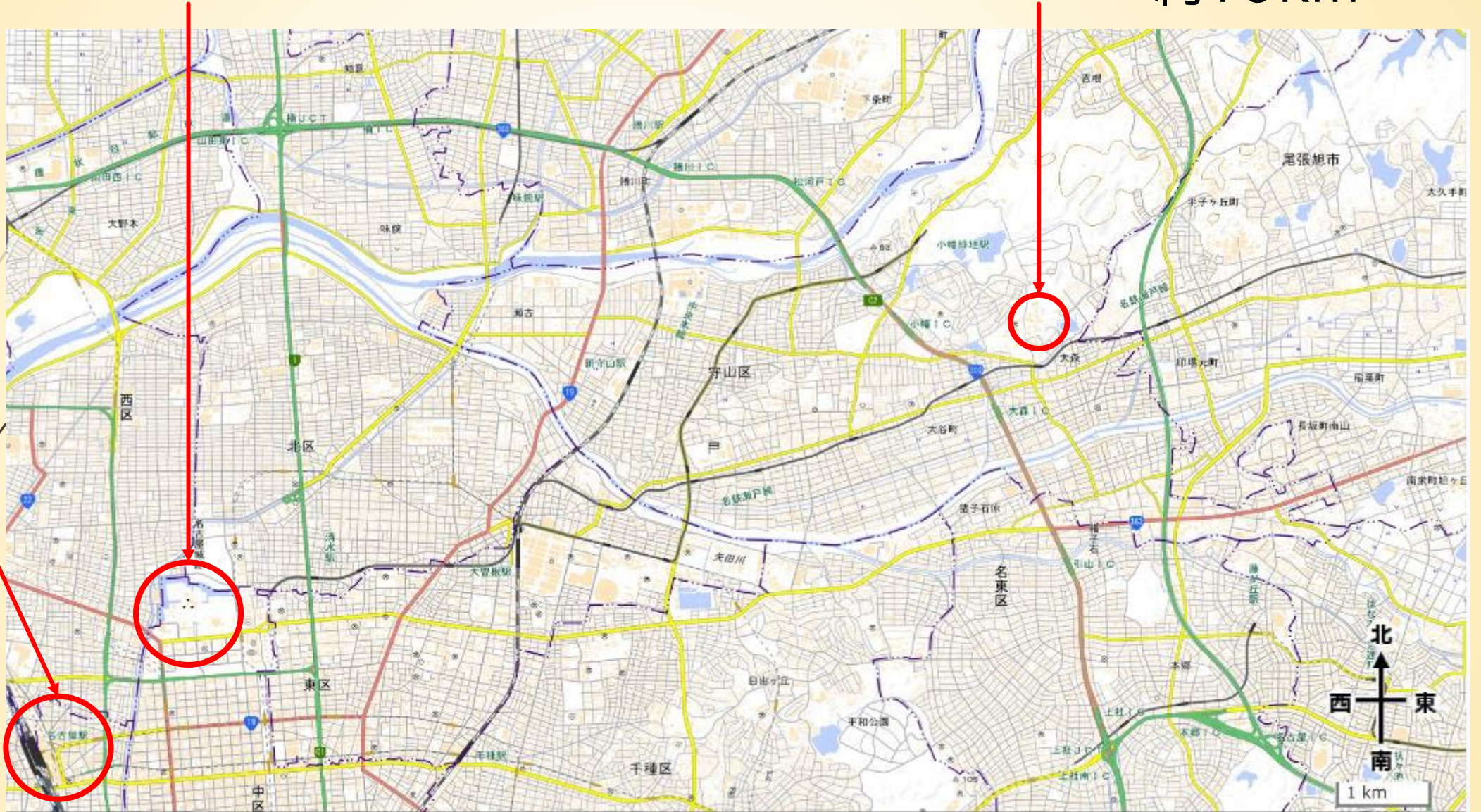


白地図専門店 (<https://www.freemap.jp/>) より引用、加工

名古屋城

大森寺 名古屋城の北東
約10km

名古屋駅



尾州御寺（びしゅうみてら）

尾張徳川家の菩提寺で構成された浄土宗寺院

明治以降、尾張徳川家の仏事を執り行うため組織された

江戸時代には尾張藩主に謁見を許された格式高い寺院

寺院	菩提
建中寺（けんちゅうじ）	初代藩主 徳川義直
相応寺（そうおうじ）	初代義直生母 相応院お亀
大森寺（だいしんじ）	二代光友生母 歡喜院お尉
高岳院（こうがくいん）	家康八男 仙千代
性高院（しょうこういん）	松平忠吉(家康四男)・忠吉生母 宝台院お愛

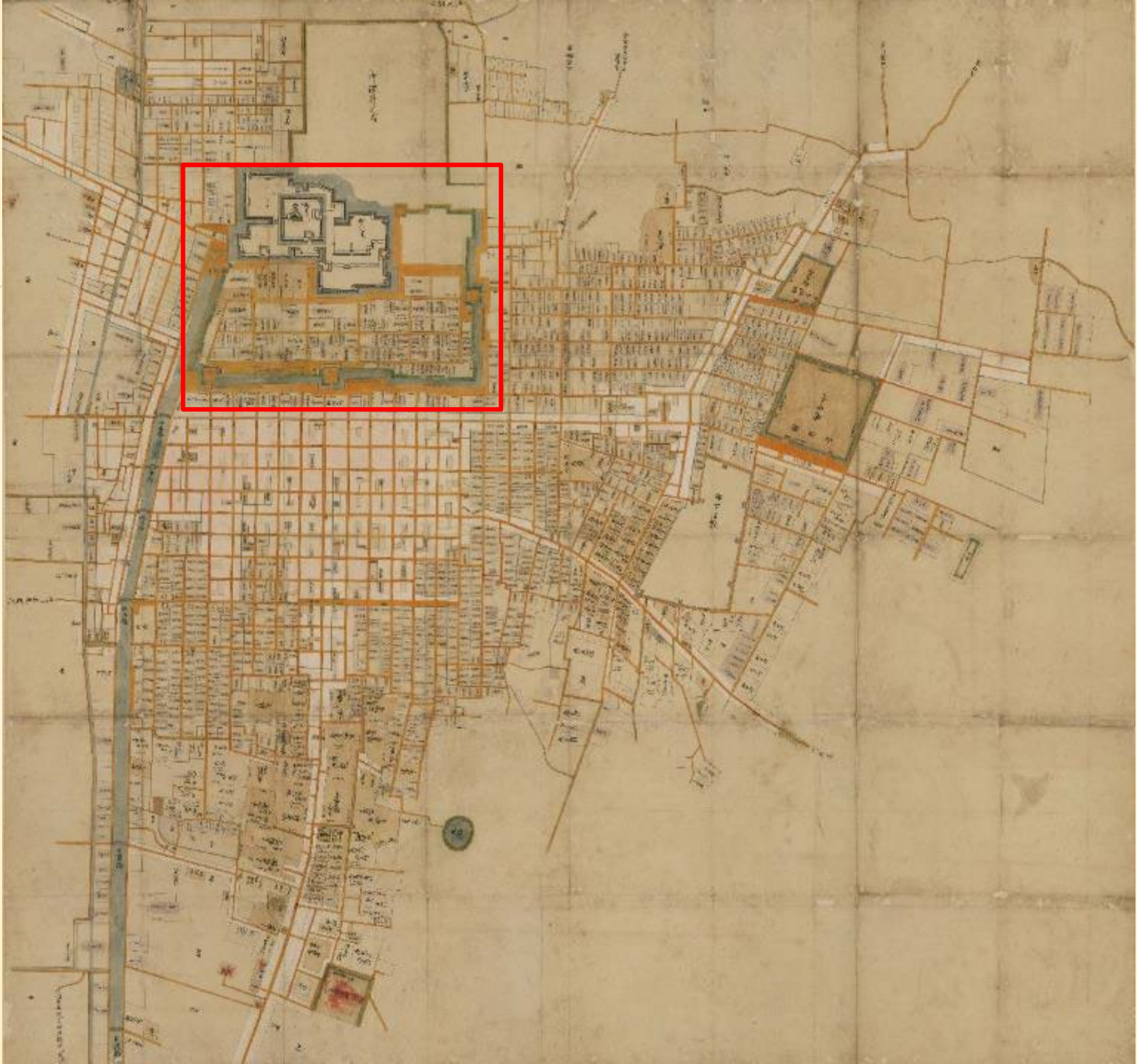
尾州御寺（びしゅうみてら）一覧

寺院	菩提
建中寺（けんちゅうじ）	初代藩主 徳川義直
相応寺（そうおうじ）	初代義直生母 相応院お亀
大森寺（だいしんじ）	二代光友生母 歡喜院お尉
高岳院（こうがくいん）	家康八男 仙千代
性高院（しょうこういん）	松平忠吉(家康四男)・忠吉生母 宝台院お愛

尾州御寺（びしゅうみてら）のある場所

寺院	現在の所在地（最寄駅）	江戸時代の所在地
建中寺	東区 筒井（車道）	現在と同じ
相応寺	千種区 城山町（覚王山） ※昭和に移転	（東区 山口町付近）
大森寺	守山区 弁天が丘（大森・金城学院前）	現在と同じ
高岳院	東区 泉（高岳）	現在と同じ
性高院	千種区 幸川町（本山） ※昭和に移転	（中区 大須付近）

「尾府名古屋図」



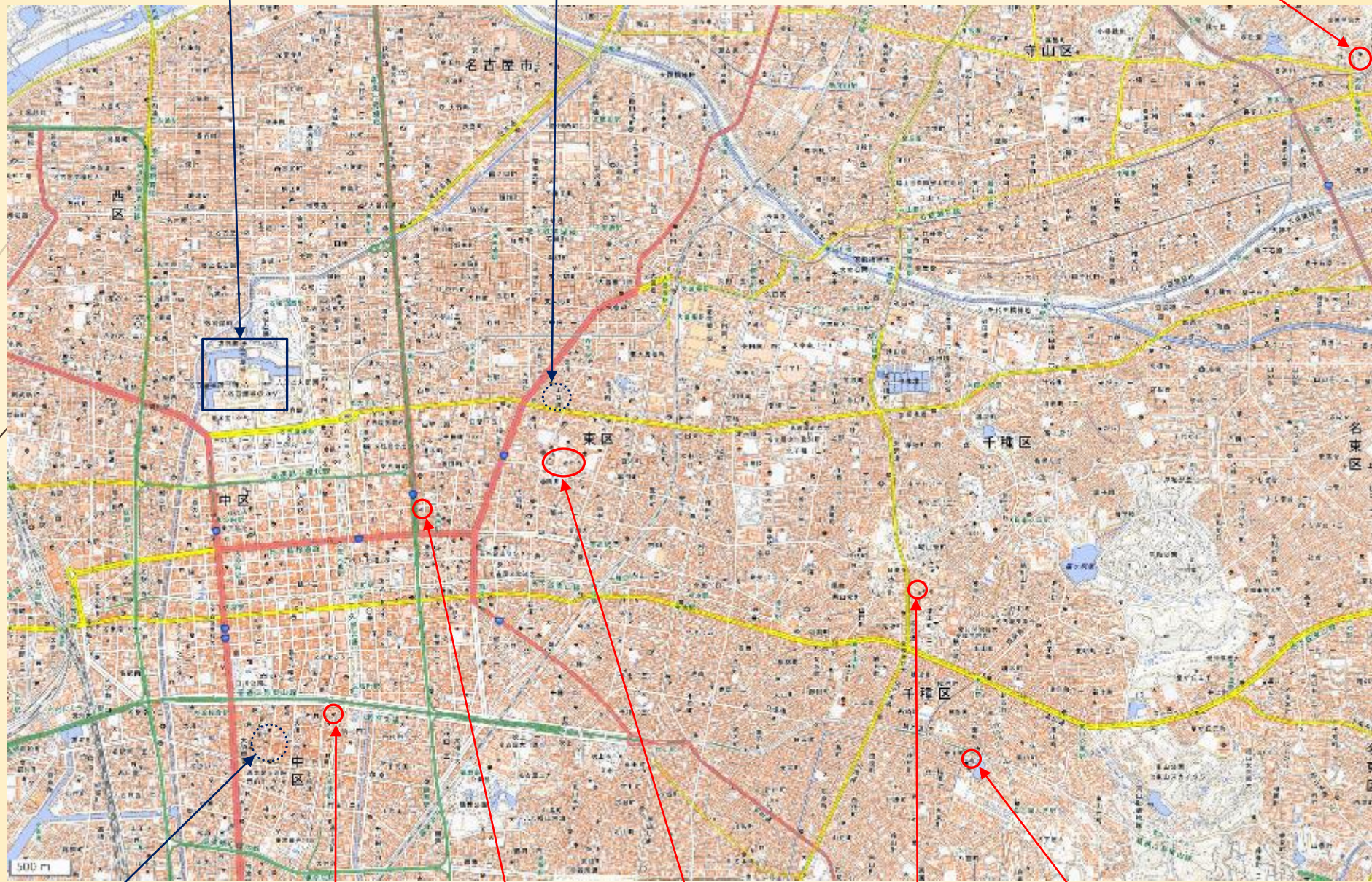
名古屋市蓬左文庫所蔵



名古屋城

相應寺(江戸時代)

大森寺



性高院(江戸時代)

清浄寺

高岳院

建中寺

相應寺

性高院



尾張国高都合併郡色分図（部分拡大） 愛知県図書館所蔵

大森村と水野街道

春日井郡**大森村**（現・守山区）：歓喜院お尉の出身地

大森村は**水野街道**（現・瀬戸街道）沿いにあった

水野街道：名古屋城→大曾根→小幡→**大森**→水野→定光寺

初代義直が鷹狩で頻繁に利用した街道

義直とお尉の出会いも鷹狩に行く途中の大森村であったとされている

歡喜院お尉の経歴

春日井郡大森村（現・守山区大森）出身

系図上は尾張藩士吉田家の出身とされるが諸説あり

19世紀の随筆「袂草（たもとぐさ）」の伝説によると・・・

- ・お尉は大森村百姓の娘であった
- ・初代藩主義直は鷹狩の途中に訪れた大森村でお尉と出会った
- ・義直の前に現れた猪をお尉が追い払ったことから召し抱えられた

歡喜院お尉の経歴

- 18世紀の随筆「昔咄（むかしばなし）」の伝説によると・・・

名古屋城の御湯殿掛をしていたお尉は、義直に見初められて男子を懐妊した

義直は当初懐妊を認めなかったが、付家老の成瀬正虎がお尉を引き取り、名古屋城外の矢崎左京屋敷で光友を出産した

寛永2年（1625）に光友出産、ほどなくして光友と離れて江戸に上り、義直の母である相応院（お亀）の屋敷に住んでいた

寛永11年（1634）江戸にて死去

歡喜院(大森寺)の創建

寛永14年（1637） 数え10歳の光友によって、江戸小石川伝通院にお尉の墓所が創建、**歡喜院**と号す

歡喜院の院主は**信譽大龍**（初代住職）

寛文元年（1661） 光友によって大森村に墓所が移転
興旧山歡喜院**大森寺**と名を改めて創建

元禄3年（1690） 光友によって**常念仏堂**が建立される
寺領100石加増、以降江戸時代を通して寺領**300石**になる

江戸 小石川伝通院

家康の生母 於大の方（伝通院）の菩提寺

寛永14年（1637）～寛文元年（1661）まで歓喜院の墓所があった



東都小石川絵図

（東京都立中央図書館蔵）

嘉永7年（1854）の江戸・小石川
伝通院門前に塔頭が立ち並んでいる

歡喜院廟所(墓所)



大森寺境内奥にある歡喜院の墓所（非公開）
寛文元年に小石川伝通院から大森村まで移転された

歡喜院殿位牌・瑞龍院殿位牌(大森寺本堂)



歡喜院（お尉）と瑞龍院（光友）の位牌

嘉永2年（1849）に新調された戸張（覆布）を展示中

大森寺山絵図

(名古屋市蓬左文庫所蔵)

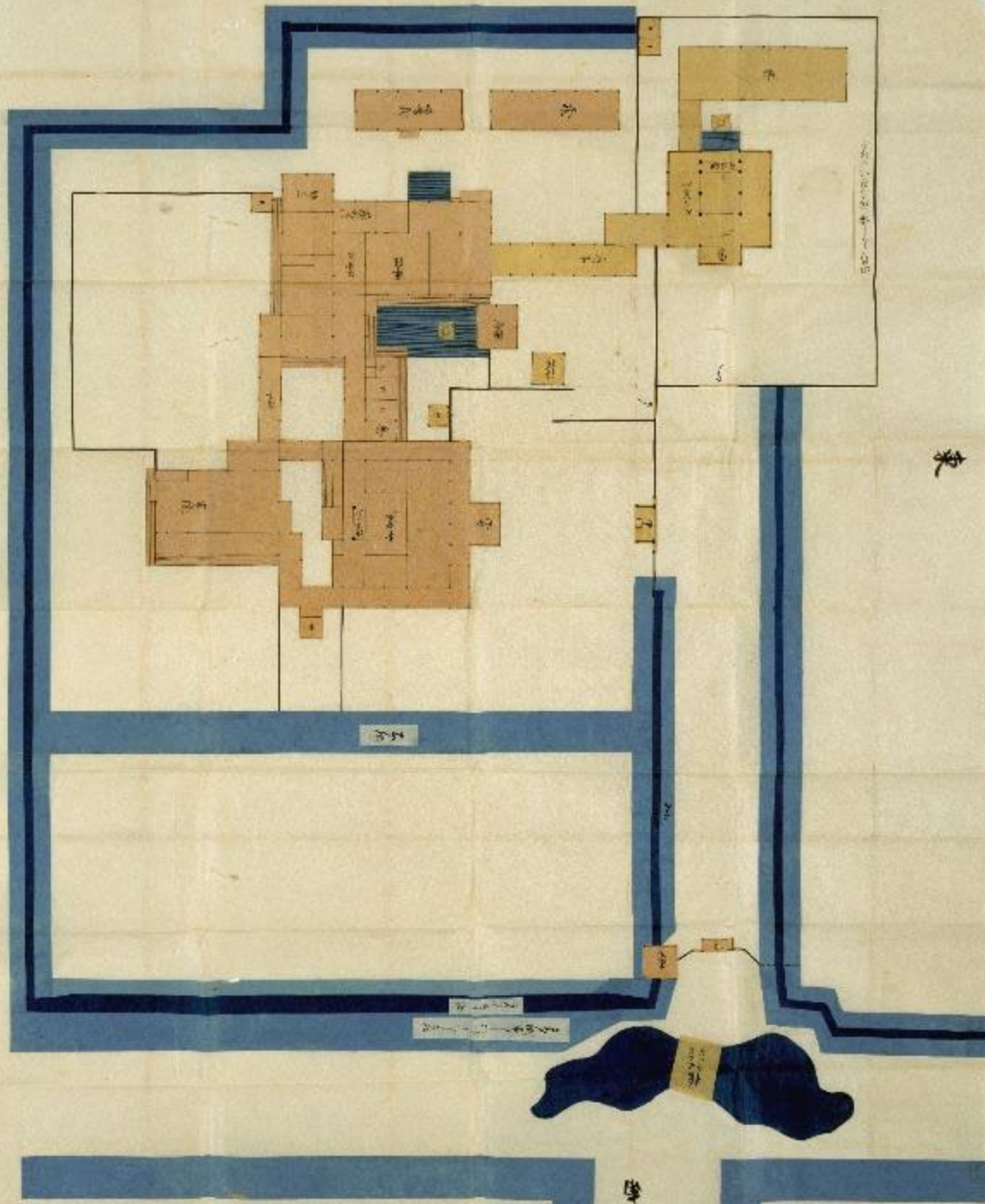
元禄3年（1690）頃の平面図

橙色：本堂・庫裡など

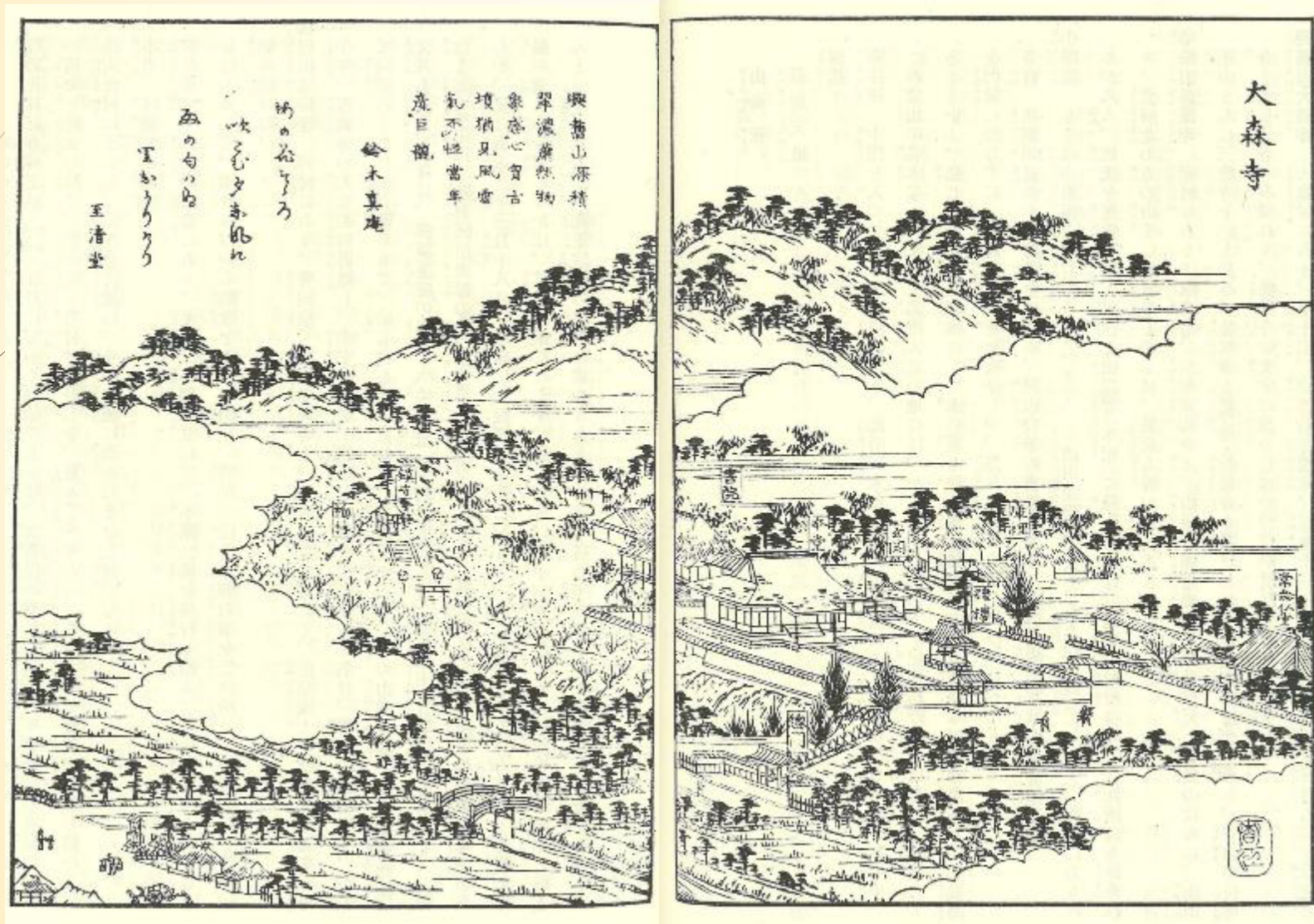
黄色：常念仏堂など

青色：お堀・土居

明治8年（1875）に本堂焼失
山門・本尊・寺宝の一部が残る



「尾張名所図会」 大森寺



二章

大森寺の宝物



「張州雜志」(蓬左文庫藏) 大森寺寺宝一覽

寺寶

一 阿彌陀佛像

一 軀 大師智證竹彫刻
安方丈內

一 同

一 軀 佛工春日所彫刻
安念佛堂內

一 黃金鑄摸觀音像一軀

一 寺額 二扁

一 白銀鑄成蓮華形舍利塔一基 塔內安舍利二十顆

一 松竹梅圖畫 三幅對

一 白鷺圖畫 一幅

一 達磨圖畫 一幅

一 西樓月 掛軸 一幅

一 瑞龍公御筆

一 西樓月 掛軸 一幅

一 西樓月 掛軸 一幅

一 西樓月 掛軸 一幅

一 西樓月 掛軸 一幅

一 西樓月 掛軸 一幅

一 阿彌陀佛画像 一幅 惠心僧都筆

一 龍樹馬鳴天親画像 三幅對 長谷川宗伯筆

一 淨土要文 田元大師筆

一 一字三禮阿彌陀經 一卷 大竟和尚筆

一 八代集卷頭和歌 音蓮院尊道法親王筆

一 山水掛物 一幅 善峯院殿御寄附

一 和歌掛物 一幅 善峯院殿御筆

一 山水畫圖 一幅 文徵明筆

一 十六羅漢画像 鳴画

一 大公望 左右 畫圖 三幅對 狩野養卜筆

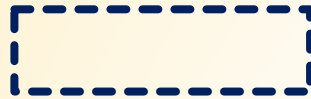
一 繪皆 同山信譽贈官時所下賜
其餘本山證狀一通有之 一封

一 開山壽牌 本山萬無和尚所筆

已上外護檀信所寄附其品最多奉其尤物耳



現在も確認できる宝物



いずれかが現在の本堂の本尊とみられる



本展覧会で出品している宝物

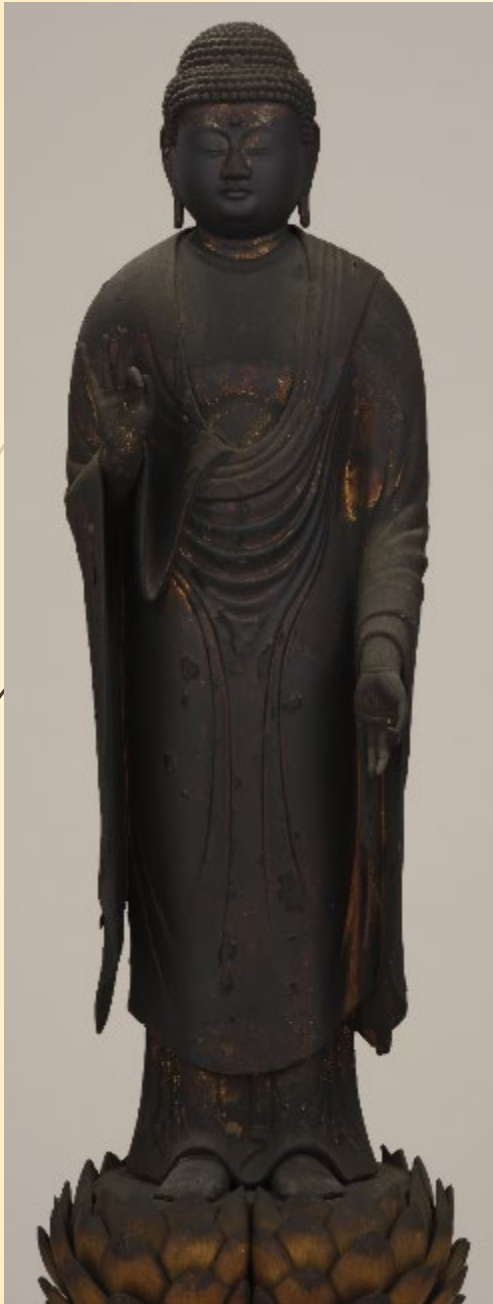
	名称	筆者	本展での作品名
1	白銀鏤成蓮華形舍利塔	—	参考出品1「銀製蓮華形舍利塔」か
2	白鷺図画	瑞龍公（光友）筆	作品9「蓮鷺図」
3	達磨図画	瑞龍公（光友）筆	作品12「芦葉達磨図」
4	尊勝陀羅尼	瑞龍公（光友）筆	作品26「仏頂尊勝陀羅尼」
5	阿弥陀仏画像	恵心僧都（源信）筆	作品8「阿弥陀来迎図」
6	浄土要文	円光大師（法然）筆	作品30「伝圓光大師法然筆書跡」
7	和歌掛物	普峯院殿（京姫）筆	作品28「普峯院京姫自筆和歌懐紙」
8	開山寿牌	本山萬無和尚（玄誉）筆	作品5「信誉大龍上人号証文」

大森寺の本尊



大森寺本堂本尊 阿弥陀如来
智證大師円珍作とされる仏像か？

大森寺奥院本尊 阿弥陀如来
恵心僧都源信作、内部に阿弥陀如来の小像が安置（小像を出品中）



阿弥陀如来立像（出品中）

平安時代末期～鎌倉時代初期（12～13世紀）

江戸時代製作の厨子と蓮華座が付属

「張州雑志」では**恵心僧都源信**の制作とされる

※恵心僧都源信（942～1017）

平安中期の天台僧、浄土教を大成した

江戸時代には常念仏堂の本尊だったとみられる



阿弥陀来迎図（出品中）

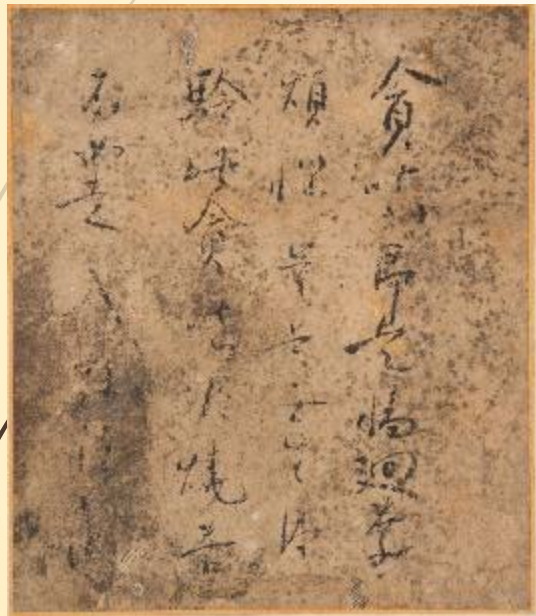
室町時代後期（15～16世紀）

光明（背景の光）、雲などは加筆されている

体は室町時代当時に描かれたままとみられる

「張州雑志」では「阿弥陀仏画像」とあり、
恵心僧都源信の制作とされる

伝圓光大師法然筆書跡（出品中）



浄土宗の開祖・法然直筆とされる書跡

中国の善導大師の著作「般舟讚」の一節

「張州雑誌」では「浄土要文」とあり、**圓光大師法然**の真筆と書かれている

定説では法然は「般舟讚」を見ていないとされる

徳川光友（1625～1700）

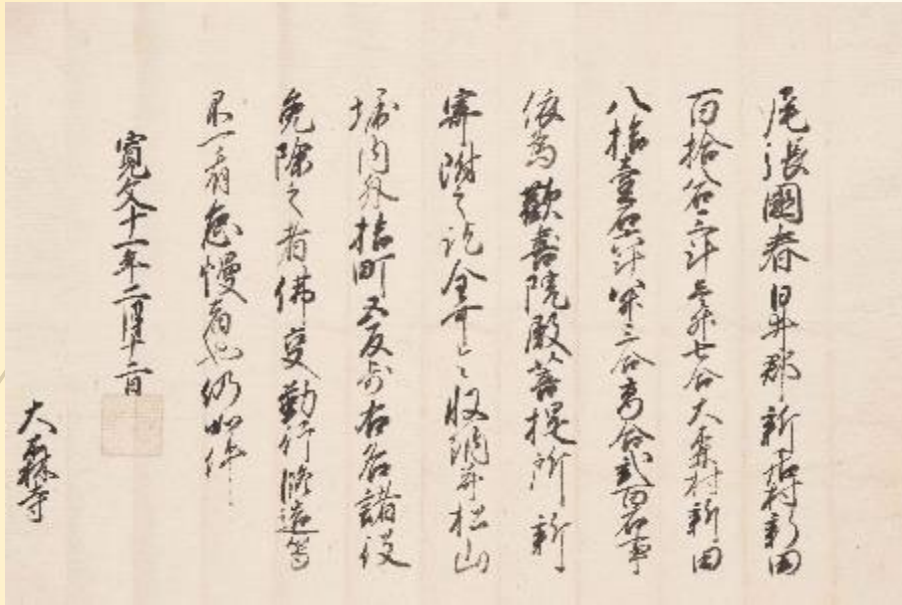
尾張藩二代藩主、はじめ**光義**と名乗り、のちに**光友**と改める

父は初代義直、母は歡喜院（お尉）

武術、書、絵画に優れた偉丈夫として知られる

建中寺・興正寺などの寺院を創建、大火のあった城下町を再建、名古屋発展の基礎を築いた名君

母の菩提をとむらうために**大森寺**を創建、発展に多大な寄与



光友黒印状（寛文11年〔1671〕）

寺領200石を寄進



光友黒印状（元禄3年〔1690〕）

寺領100石を寄進

光友のほか、歴代藩主の黒印状が揃っている

徳川光友自筆水墨画（4作品）

「蓮鷺図」

光友が20代頃の作品「張州雑志」で徳川光友筆とされる



「芦葉達磨図」

「張州雑志」で徳川光友筆とされる



「竹雀図」

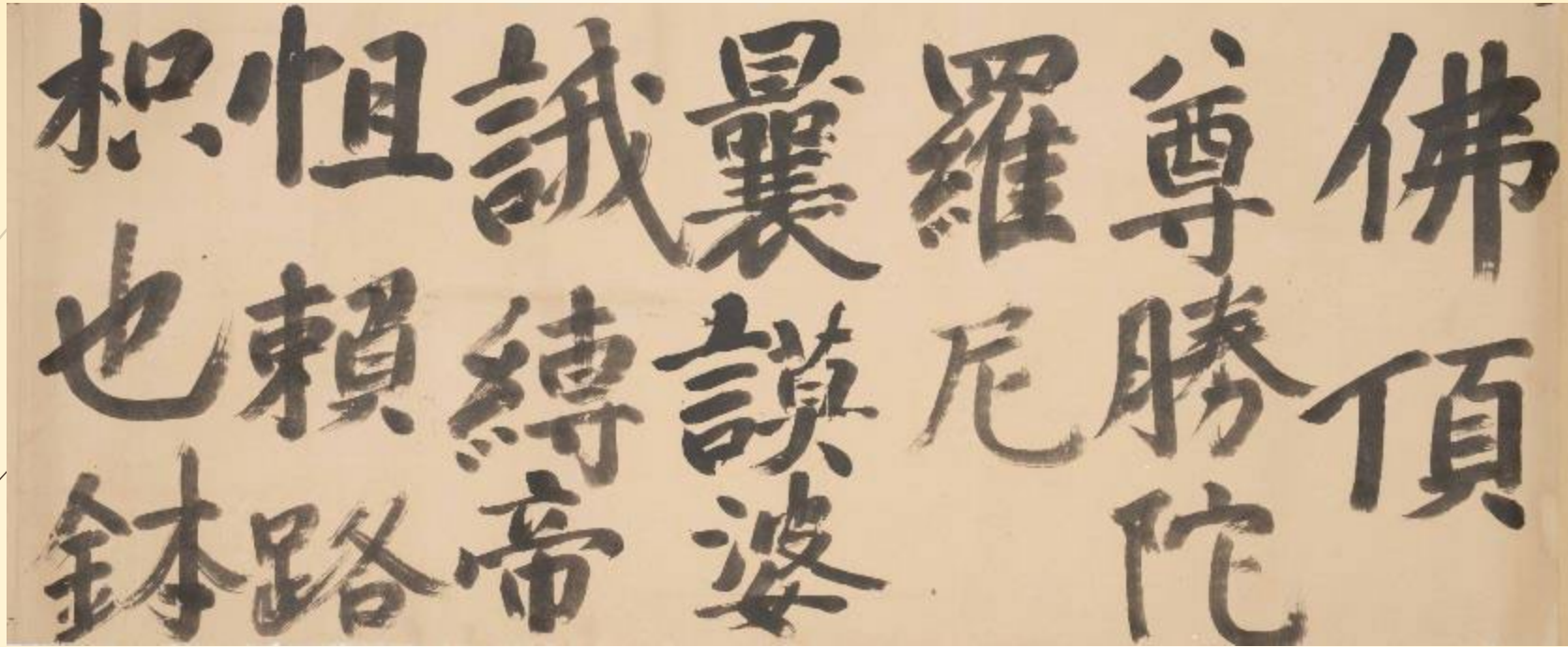


「山水図」



いずれも光友による水墨画

徳川光友自筆 仏頂尊勝陀羅尼

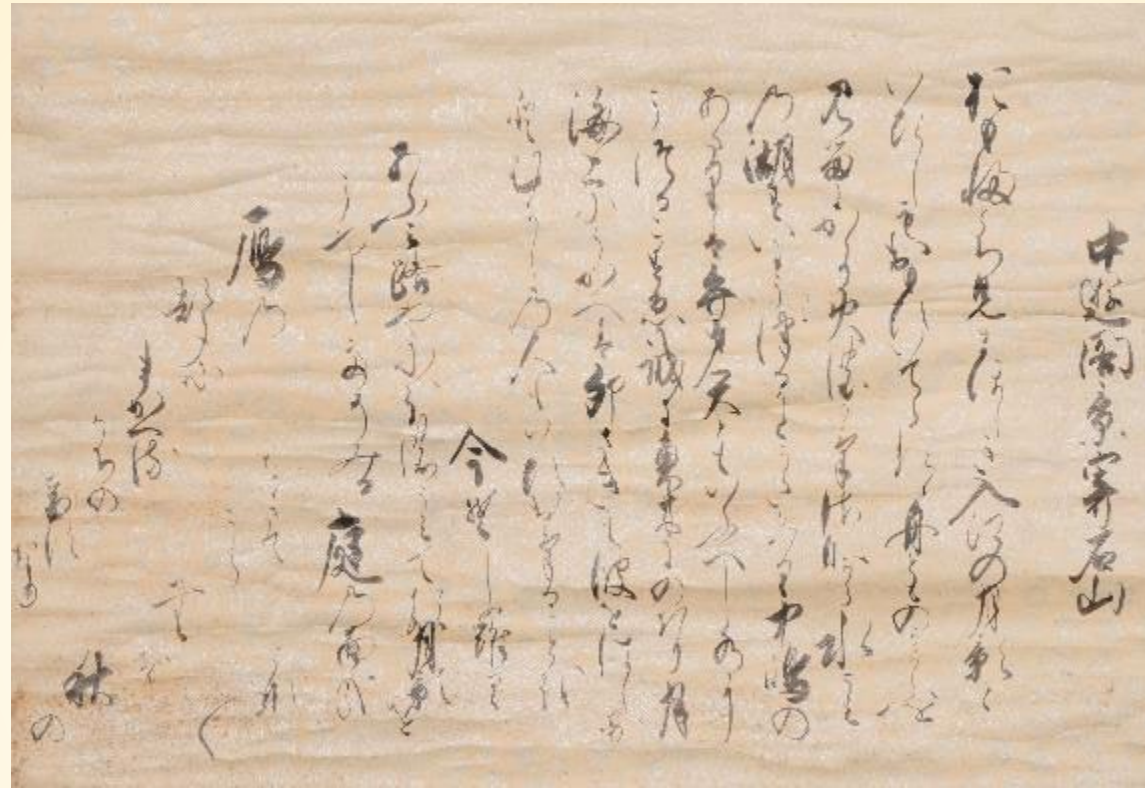


光友がみずから記した陀羅尼

陀羅尼：古代インドで使われた梵語をそのまま仏に唱えるための文言

仏頂尊勝陀羅尼には罪障消滅の功德があるとされる

普峯院京姫自筆和歌懐紙



光友の異母妹である京姫が記した和歌が二首のっている

初代義直の子女は光友と京姫の二人だけなので大切に養育された

京姫は和歌に秀でた人物として知られている

大森寺開山 信譽大龍上人号証文

知恩院三十八世 玄譽萬無筆



大森寺二世 深譽吞益上人坐像

大森寺三世 然譽義典制作



御深井釉白象香炉



尾張徳川家から寄進された象の形をした香炉

御深井釉牡丹唐草文水甕





名鉄瀬戸線「大森・金城学院前」駅 徒歩1分

名古屋高速 第二環状線 外回り「大森インター」車で2分



大森寺